

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (23): 29-32, 1996.

香川県内のハクビシン

森井 隆三 ・ 佃 百恵

〒762 香川県坂出市文京町2-1-5 香川県立坂出高等学校

One Specimen of *Paguma larvata* collected
from Kagawa Prefecture.Ryūzō Morii & Momoe Tsukuda, *Sakaide Senior High School,*
Sakaide, Kagawa 762, Japan.

ハクビシン *Paguma larvata* の記録としては、『博物局「動物図」(1872)のなかの中島仰山画のヌアジ、マア- (Kinkajou) という獣は、ハクビシン (*Paguma larvata taivana* SWINHOE) なること明らかで、台湾および紅頭嶼産のジャコウネコの一つである (上野, 1960)』というものがある。1965年当時の日本での分布としては、福島県、茨城県、山梨県、長野県、静岡県、愛媛県および徳島県がある (那波, 1965)。そのうち、静岡県で最初に捕獲されたのは、1943年で、1965年ころにはハクビシンによるミカンの被害が聞かれるようになったという (那波, 1965)。1994年現在では、不連続ではあるが北海道から九州まで分布している (阿部ら, 1994)。

四国における記録としては愛媛県 (清水, 1958; 古屋; 1971), 徳島県 (那波, 1965; 阿部ら, 1971; 友成, 1985), 香川県 (立石, 1968, 1974) および高知県 (長野県教育委員会, 1983) がある。阿部ら (1971) によると徳島県で初めて知られたのは1954年で、1970年ころからハクビシンによる被害が出はじめている (友成, 1985)。香川県では1936年に塩江町で捕獲されたのが最初で (立石, 1974), 塩江町では、1965年, 1969年にも捕獲されている (立石, 1968)。1975年の段階では、大野原町, 財田町および琴南町で確認されており、1974年には相当増加して、一部被害の報告があった (香川県環境保健

部, 1975)。

香川県内では立石 (1968) 以降捕獲についての記録はなかったが、1995年7月8日午前7時45分ころに、筆者らは香川県立坂出高等学校 (香川県坂出市文京町2丁目1番地号) の運動場のはぼ中央付近で死んでいるハクビシンを見つけた。

発見当時、ハクビシンの背の右側は何かにか噛まれた様子で出血していた。遺体の周辺は地面が湿っていて、多数の足跡が残っていた。足跡の1種は直径3cmくらいで爪の跡はなかったが、残りの1種は直径4cmくらいで爪の跡があった。この足跡は、子安 (1994) に従うと、爪のないのは半しょう行性を示すハクビシンで、爪のあるのは指行性のイヌ *Canis familiaris* のものと思われる。この2種類の足跡から判断すると、イヌに襲われたのではないかと思われる。ハクビシンが引きずられた様子はなく、腐敗は進んでいなかった。

遺体は外部形態を物差しで1mmまで計測した (表1) 後、剥製にした (図1; 標本は坂出高等学校に保管している; R0073)。頭骨 (図2 ①, ②, ③, ④) はノギスで0.1mmまで計測した。歯式は13/3C1/1PM3/3M3/3=40であった。

1995年7月10日現在の香川県内の記録を香川県環境保健部自然保護課に問い合わせたところ、1990年~1994年にかけて自然保護課への遺体拾

表 1. ハクビシン (雄 ; R0073) の外部・
頭骨の計測値

体重 (g)	3,350	
頭胴長 (mm)	560	
尾長 (mm)	480	
耳長 (mm)	右50	左48
後足長 (mm)	右73	左75
前足長 (mm)	右48	左50
頭蓋全長 (mm)	106.6	
基底長 (mm)	105.2	
頬骨弓幅 (mm)	60.2	
乳様突起間最大幅 (mm)	38.7	
眼窩間幅 (mm)	19.1	
脳函高 (mm)	37.8	
下顎長 (mm)	79.7	
脳間幅 (mm)	35.0	
上顎臼歯長 (mm)	25.0	
上顎歯隙長 (mm)	3.8	
下顎臼歯長 (mm)	28.0	
下顎歯隙長 (mm)	3.6	

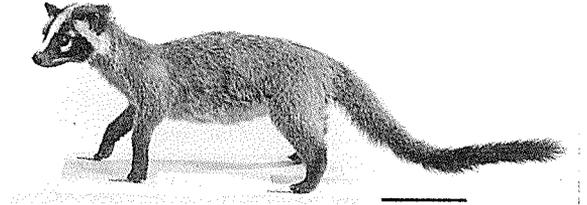


図 1. ハクビシンの剥製 (雄 ; R0073)
香川県立坂出高等学校に保管
右下のスケールは10cmを示す。

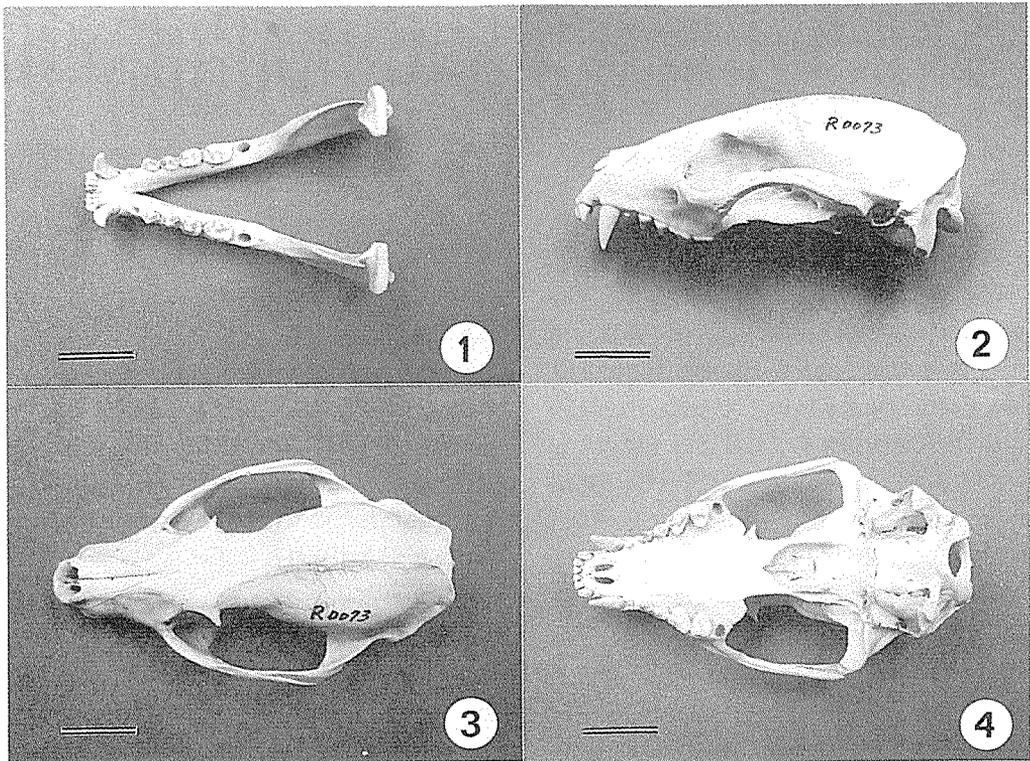


図 2. ハクビシンの頭蓋骨 (R0073)

- ① ハクビシンの下顎 ② ハクビシンの頭骨側面
③ ハクビシンの頭骨背面 ④ ハクビシンの頭骨腹面
各図左下のスケールは2cmを示す。

得および捕獲の届出は表2のようであった(新上洋子氏)。

また、聞き込み調査に協力いただいた藤沢豊氏(綾歌郡富熊), 吉川武憲氏(高松市生島町), 滝朋子氏(大川郡大内町)および谷口しげこ氏(琴南町)によると, ハクビシンは大内町(1990), 飯山町(1993), 高松市屋島西町(1995), 坂出市王越町(1995)で目撃されたり, あるいは死体を発見しており, 琴南町では生息しているという。これらを含め現在までに香川県内でハクビシンが確認された市町および発見された年を図3に示した。

今回の調査をまとめるにあたり指導・助言をいただいた香川大学教育学部教授金子之史先生, 資料を提供いただいた香川県環境保健部自然保護課の新上洋子氏および聞き込み調査に協力いただいた方々に感謝致します。

引用文献

- 阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎吾・米田政明. 1994. 日本の哺乳類. 東海大学出版会. 東京. 195pp.
- 阿部近一・武内恵行・山崎孝信. 1971. 剣山とその周辺の哺乳類その他. 剣山 県民の森: 129-132.
- 古屋義男. 1971. 石鎚山のハクビシン. JIBPC-TS, 1970年度研究報告: 255-262.
- 香川県環境保健部. 1975. 香川県のとりとけもの. 香川県. 72pp.
- 子安和弘. 1994. 足跡図鑑. 日経サイエンス社. 東京. 180pp.
- 那波昭義. 1965. 静岡県下のハクビシンについて. 哺乳動物学雑誌 2(4): 99-105.
- 長野県教育委員会. 1983. 長野県天然記念物ハクビシン調査報告書(未見, 友成による).
- 清水栄盛. 1958. 四国の哺乳類に関する知見. 哺乳動物会報(22): 179.
- 立石清. 1968. 香川県大滝山で捕獲されたハクビシン. 香川生物(4): 5.
- . 1974. 大滝山のハクビシン. 香川の動植物. 高松市役所. 高松市. 203pp.
- 友成孟宏. 1985. 鳴門市でハクビシン発見. 徳島の自然 (39): 3-4.
- 上野益三. 1960. 明治前日本生物学史 第1巻. 日本学術振興会.